

繪本文武碓碓

平掛

五



へ遠13
1.621
54



特
1621
5

平林



父を敬ぶ事

孝之

礼

子に親より清く

附 鷹の如き後に行はれん
二十子乃其まじ業の徳貞

仁

腰ハカシ物事なる

附 兄弟六人一人の如くは對
心善く義徳を修めしおとこ



5

義

猶行未得の義

附 女の女が情に大涙
馬帽子かな思ふまじり侍

文氏さき石巻才五

子ハ親ハ妙ハ約

敵軍ハ非道ぬ義理の忠
事ハ善ふく徳もまじく

そのついで平野文彦といふ侍方と志のふさまの育て。幸國
を後とを名として。早く軍人の内。あかき者一。前
言とよま久あつて。平野のまじりけ。人のせも。あはれ
あり。を後少育。城のうしく。とる。山神流のまじり侍
美一と。P.として。まことの城。上へ。侍。まじり侍。な
てあり。付。あはれ侍り。あかへ。まことのわ。せ。まじり侍。まじり侍。け
る。を後。女房。子。文。才。所。が。ほ。び。と。れ。よ。ま。ま。と。城。は。侍。と。合
ま。ま。ら。て。侍。せ。ぬ。光。と。わ。ら。う。わ。ら。れ。ま。ま。く。子。ま。ま。ま。ま
して。前。侍。く。あ。か。と。所。た。ら。ぬ。文。才。所。の。り。ま。ま。け。ま。ま。母。の。り

まゝにわたりきつらう。わが身も心も母の身と心とを思ふて
くちあつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
のふんとあらまねが。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
ひらかり。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
の手。文字解何うかは。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
ぐ。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
我が身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
て。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
す。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
し。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて

前にして。文字解。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
の。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて
あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて。あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて

あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて

あつたうさ。わが身も心も母の身と心とを思ふて

ところか下まめく病もあつてこの後よつれとのけ
 ば。旅乃侍いささき一すおふもこのときさうな
 もねむか一人さうのありまは所病入のてい
 きてけらうし幸ひさう乃唐屋は油でしぬさる。神丹有
 ば何所をもし位せらるるべし。むほかどいんあうべし
 とそ。旅人へむいふの家は宿ざりきるが。又まうて旅人
 へいふとさる。又し郎立出候とさる。さういふはあはれなり。あは
 ねしゆとのおひ業こそ。さういふべし。さういふはあはれなり。あは
 とはとあひさけさりと。奥より母はて。さへ母はまを
 とさる。さういふと。一はは同なり。て。親子とをさう
 へまうし。今れ親と。しゆさる。さういふはあはれなり。あは

ところ載り。さういふと。さういふはあはれなり。あは
 へのあり。神丹有。さういふはあはれなり。あは
 なる。神丹有。さういふはあはれなり。あは
 らは。さういふはあはれなり。あは
 んん。さういふはあはれなり。あは
 うけ。さういふはあはれなり。あは
 けら。さういふはあはれなり。あは
 旅乃侍。さういふはあはれなり。あは
 中。さういふはあはれなり。あは
 ケ年の。さういふはあはれなり。あは
 ての。さういふはあはれなり。あは

これ叔父の徳を承るは、
まうれ十代の母は、
とより。文書とて、
んけりときぬ、
敵之徳と見知り、
けり。中書とて、
る。因まげ、
れり。中書とて、
後とて、
く。大徳とて、
ごひらるといふ、

今、合せて、
上にも、
一、
く。大徳とて、
は、
と、
けり。中書とて、
る。因まげ、
れり。中書とて、
後とて、
く。大徳とて、
ごひらるといふ、



わんごうよと西てあり。我親もどが親とらちゆへよ
うさうとて秘のふに秘されあさるべしものありゆへ
をのたはとありあり。なせがなせとて念わしとて
ハ我親とら海海とそれとて母人海海とて
よわやうも命をなせがなせとては力のこあ
ハ母の命のを。人まあんとて又とて
うなせとてなせとてなせとて半もあつ。是もた
のらまのよりとてあつ。あつとていともいとも
このもや深ん。相とてびる母のうとていとも
まがれくも喜しあつ。やあつとて文士所ハなせとて
小袖とてなせとていともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいとも

小袖とてあつ。たふのいともいともいともいともいとも
をわよハあ命とて水の粉とていともいともいともいとも
よとていともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいとも
うらうらなせとて海の家とていともいともいともいとも
人富水とてなせとていともいともいともいともいとも
ま事あり。是ハ所出といともいともいともいともいとも
此。只今も来來れ中とていともいともいともいともいとも
よありとていともいともいともいともいともいともいとも
我とていともいともいともいともいともいともいともいとも
あつ。けつとていともいともいともいともいともいともいとも

まふ。され念力のぬき離らしてらまんと。おとらこをそらふは
る。おりの初。敵もまふとして。おのり歌を伝へるとは。なまの
乃。お月十と。海り。おれのいよまふ。て。おのりまうけて
計て。おのり侍の侍ハ。おのりの。おのり。敵と敵と。おのり
し。ほのま。て。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。

運命。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。
おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。

文部省

文部省

とうりうらよまねびづ色の^だ種もまむ事と文十郎をれ
ハヤキルんたさうりよあつていふれがらの方ハ母人の命れ
親ありのあんとまねれらまふそねがとらうてそれごとくは
せり命をモハ文十郎がこまりつゝとさうして我方に切付
る。文十郎も又なせつゝとさうて身さつてお人家をあ
んとてら。母の星とまきうりらつてまきてり。あまののこもの
死もこととあつてまらひでうたれせりせり。うらとら
つとをぬきて。なせつゝとあつて我子の文十郎がまのハをま
まにせつゝとあつて死よらう。これま
てな傷もあつてと腹切てあつてら。殊はあまの命を
世ふせらまらうのいふ

腹の傷りおまをれ

志まきつるはあつてあんな
けつれあつた後まをぬく

わやあまのいももなすくまきつゝの。あつて平親玉のつゝは清丸
城の^{えい}茂親^の補作^の在^り完^とまきえ一ハ仁政とわらう。文十郎は
の^い沖家^の代^のの^し執^の権^の職^をなせり。又お監^のわととついで
お守^の乃^の補^の作^とありまら。あまは又山歩^の行^目付^付。徳^の田^の志^の遠^の
はらな^の志^の遠^のい^のり^の事^もや^の沖^もま^のま^のら^のう^のり^の屋^の跡^の
沖^の遺^の物^のより^のて^のだ^んく^の事^のは^の今^もま^のの^あり^のい
つゝま。あつて沖^のれ^のあ^つて^の屋^とは^り。あつて沖^の内^の跡^とら
万事よこしついで沖^のま^とと^はげ^とら。それ^のあ^つて^の
あつて^の事^とま^をれ^すの^あん^の事^と早^に下^りて^の
まら^のけ^のあ^つて^の沖^の代^と沖^のの^がせ^らら^るの^い佳^の儀^の

つて役人とゆふしひあかり。継彦のうら。全国を巡る
所書代とす。其書もがえりのこそ所判とおはれとあるぬ
りのこれと所のかせらるべとの付。取のたせよ。横田幸
次もるべと所さしはさういふ。継彦のせいよ。其れと所
のかせと。すつのもを所といふ事とす。そでよ。其れ
けらびの所判とさしはる。と系侍りぬ。是とある事。あ
らそ。とらふもそ。継彦がさういふ。して。大事は。役とあつ
けら。是も。所判の。内。お。び。い。事。た。と。あ。ひ。う。く。お。つ
とら。す。れ。あ。ん。ど。又。所。か。さ。う。所。判。ら。う。さ。り。の。持。念。あ。り
哉。と。さ。り。あ。る。所。判。た。れ。の。は。入。は。う。う。り。あ。多。少。何。や
ら。法。務。書。れ。も。ま。い。と。海。ぬ。り。の。よ。あ。り。て。継。彦。の。事。と。た。

ら。所。判。さ。で。い。る。あ。り。ぬ。書。び。は。の。方。が。さ。の。ど。く。あ。り。は。な
び。お。娘。一。様。の。心。の。お。り。ま。と。赤。本。の。ひ。の。ご。ま。ま
り。か。て。原。稿。も。肉。も。す。と。け。を。継。彦。か。つ。ぎ。と。兼
細。と。書。へ。い。思。う。の。義。と。ゆ。ひ。う。赤。本。の。ひ。の。ま。ま
う。ま。ま。び。の。月。ま。お。へ。た。せ。り。ま。ま。と。さ。今。ま。ま
乃。ま。ま。と。書。へ。い。原。稿。を。か。り。と。赤。本。の
尺。さ。り。也。城。侍。は。近。門。よ。ま。う。り。あ。り。し。の。う。く。い。た。の。だ。ん
継。彦。の。と。せ。だ。ぞ。し。ハ。そ。う。方。の。所。判。あ。り。と。す。と。す。の。の。を
お。へ。な。ハ。出。す。な。い。と。す。の。あり。月。ま。ま。を。か。り。あ。り。と。す。い
お。ん。た。り。也。城。侍。ま。ま。と。出。勤。と。ま。ま。し。バ。い。う。わ。ら。い。と。す
何。ま。ま。わ。り。た。り。て。も。お。は。し。事。あり。と。あ。の。ま。ま。と。あ。り。と。す。

夜もどほあまの御代来して。お徳の上は侍のむら
 の又徳ののあまの御代来して。お徳の上は侍のむら
 因してあるむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 まし。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 の後。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 及び。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 く。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 こも。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 い。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら

お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 り。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 を。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 も。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 念。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 と。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 は。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 す。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 一。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら
 一。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら。お徳の上は侍のむら

徳の上は侍のむら



新編海防

四葉と恋しくおぼしきとてうぬじりのお記りのを
 おがせりさるべし章こよひあどるをもまれば沖はをけ
 は成程の沖かりしのはんとおまゝに入て今も二百
 九てまりお社よ入てこもくかへせ路へよけい
 こりまきとちりていあびりりり守とひりひまらあもほ
 く。きごことんあつておまへんやぬとまりてか。我
 おいよういあんとすまづひりりりりりりりりりりり
 うせめしむしあかーかーいりりりりりりりりりりり
 くおのあひぢぢぢの今もあつてけしりりりりりりり
 ろし福じとして。今れ男の男にありていかんめんあ
 事ありまの男のねまゝに入ておまゝにけりりりりりり

まはばあ方うへにけりていふにうへも旅人のちと
してゆふぬぐいとをねもいふもあくとけりひよつてこ
のトよくもいふにまもいふにまもいふにまもいふに
ぬぐいとけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
をぬぐいとけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
はまもいふにけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
てはまもいふにけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに

うへにけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに
あつてけりひよつてかきもあつてけりまもいふに

11

11



47
48

1917年11月15日

